

平泉柳之御所跡研究の現在

入間田 宣 夫

-
- | | |
|-------------------|------------------------|
| はじめに | 3. 平泉館・加羅御所・無量光院の三点セット |
| 1. 堀の内・外の居住者をめぐって | 4. 都市平泉の鎮守をめぐって |
| 2. 認識の変更を迫られる | むすびにかえて |
-

論文要旨

北上川遊水地ならびに国道4号線バイパスの工事にともなう平泉柳之御所跡遺跡の発掘・調査は、「北方の王者」藤原秀衡のくらしぶりを甦らせる遺構・遺物の一端を検出することによって、学界内外に大きな反響を呼び起こした。遺跡の保存・整備をもとめる世論の高まりを作り出した。そればかりではない。保存運動のとりくみのなかで、数多くの研究発表がなされ、シンポジウムがくりかえされるなどのことがあった。そして、研究の飛躍的な発展がもたらされることがあった。

遺跡の保存が決定されて、運動が一段落をみることになった現在、この辺りで、百花斉放・百家争鳴ともいうべき研究の状況を整理しておくに越したことはない。今後の展望を明らかにするためにも、それが必要である。そのような整理の作業の一例を、小論において試みることにしたい。

そのさいに、取り上げるべきポイントは少なくない。だが、紙数には限りがある。ここでは、若干のポイントに絞って、作業を進めることにならざるをえない。堀の内・外の居住者をめぐって／平泉館・加羅御所・無量光院の3点セット／都市平泉の鎮守をめぐって、などのポイントがそれである。